

Lucas (1972) モデルにおける複数均衡

南山大学 松井 宗也

発表内容

Lucas (1972) はマクロモデルに情報の不完全性を導入することで、古典的な貨幣の中立性とフィリップス曲線における失業とインフレ率の関係を矛盾なく説明した。そこでは、貨幣供給量自体はその水準に比例する形で物価が変化するため、実体経済に影響を及ぼさない。これは貨幣数量説の成り立つことを意味する。ところが Lucas (1972) モデルにおいて貨幣が非中立的となる均衡の存在が複数の研究で確認されている。さらに、均衡では一般に貨幣は非中立的になることまで証明された。実は貨幣中立性な均衡の存在には特殊な仮定が必要であり、その特殊な仮定でのみ貨幣数量説な結論が導かれるのである。本稿では Lucas (1972) モデルを取り扱った文献をまとめそれらの関係を明らかにする。特に貨幣がモデルにもたらす影響を中心に、各文献の類似点や差異を明らかにする。詳しく取り扱う論文は Otani (1985) と 松井 (2011a,2011b) である。新しく得られたことは、前者の具体例において後者のアイデアを再現することで、貨幣非中立的な均衡がより簡単に導出できた点である。証明もより簡単になった。関連する先行研究 Chiappori and Guesnerie (1990,1992) と Otani (2011) も解説する。

キーワード：貨幣の中立性，世代重複モデル，Lucas(1972) モデル，貨幣数量説，貨幣供給ルール，時間選好。

参考文献

- [松井 (2011a)] 松井宗也，「Lucas (1972) のモデルにおける貨幣の非中立性」，『社会科学研究』，**63**，2011 年： 91-109.
- [松井 (2011b)] 松井宗也，「Lucas (1972) のモデルにおける貨幣の非中立性：労働供給量に上限が存在するケース」，『南山経営研究』，**26**，2011 年： 255-286.
- [Lucas(1972)] R. E. Lucas, Jr., Expectations and the neutrality of money, *J.Econ.Theory*, **4**, (1972), 103-124.
- [Chiappori and Guesnerie(1990)] P. A. Chiappori and R. Guesnerie, Anticipations, indétermination et non-neutralité de la monnaie, *Annals d'Economie et de Statistiques*, **19**, (1990), 1-25.
- [Chiappori and Guesnerie(1992)] P. A. Chiappori and R. Guesnerie, The Lucas equation, indeterminacy, and non-neutrality: an example, In *Economic Analysis of Markets and Games* edited by P. Dasgupta, D. Gale, O. Hart and E. Maskin, The MIT Press, Cambridge, 1992, 445-464.
- [Otaki(2011)] M. Otaki, A pure theory of aggregate price determination, *Theoretical Economics Letters*, **1**, (2011), 122-128.